ＩＣＴ時代に思うこと

ＩＣＴ（Information and Communication Technology）、日本語で「情報通信技術」、今では誰でも覚えている言葉で、コンピュータと通信技術の進歩、それが融合した技術として代表的なインターネットの活用は、ごく当たり前の時代になっており、先進国のみならず、未開の地でもごく当たり前に使われ、人間社会に不可欠なものになりました。

私は、スマートフォンは使っていませんが、いわゆるガラ携２台と大型タブレット、スマホの代替となる電話機能付属のミニタブレット、インターネット回線に接続された役所と公舎のパソコン、さらにはプライベートデータを管理するインターネット回線に接続されていないパソコン、と多くの端末を使っています。

大多数の人々も、多かれ少なかれ、これらのＩＣＴ端末に振り回されているといっても過言ではないと思います。

さて、先般「ポケモンＧＯ」というスマホ対応のゲームソフトが出現しましたが、ゲームに夢中になり事故を引き起こすなど社会問題にもなっています。

私の場合は、ミニタブレットにダウンロードすれば遊べるでしょうが、そもそもゲームというものには、まるっきり興味が沸かないのが実態です。

麻雀ゲームが上手な人が、駆け引きの入る本物の麻雀に勝てるとは限らず、車の運転ゲームが上手でも、タイヤから伝わる感覚を感じながらの微妙なコントロールが必要なハイパワーのスポーツカーを安全に運転出来るとは限りません。

私も年寄りの部類に入り反射神経が鈍くなり、この種のゲームには歯が立たないということの負け惜しみかもしれませんが、運動能力や感情感覚を使う現実空間のプレイからあまり遠ざかると、人間の本能的能力の退化につながるのではと心配です。

ところで、ゲームとは少し異なりますが、ＩＣＴの発達で最近話題になっている自動運転に関して、一般道どんな所でも完全自動運転で走れる車は出来るものかと、あるメーカーの専門家に聞いたところ、答えは「まずは不可能という」ということでした。

その理由は例えば、狭い路で車が対面し、どちらかの車がバックして譲らなければならない場合、一方の車に乗っている人が会社のお偉方で、一方の車に乗っている人がその部下の場合に、自動運転のセンサーはどう判断するでしょうか。

道路状況からみて、バックし易い位置にいる車がバックするとして、それが上司の車であった場合に、人間社会の常識からしてどうなるのか、上司の場合はまだしも、怖そうなお兄さんが乗っている場合はどういう結末になるのか。

人間の思考能力は、ＩＣＴ以上に深く複雑で微妙なものではないでしょうか。